

折紙探偵団新聞

おりすじが
二本立てだよ
32号

折紙研究ノート (2)

一具象折紙における対象の研究一

鈴木邦雄

国際会議の折、前川さんから「飛ぶカブトムシ」を頂戴し、昆虫学が専門なので「やったあ！」と心の中で快哉。カブトやクワガタ、トンボ類などの昆虫は、人気が高く膨大な折紙作品があります。前川さんの作品は精巧で、翅鞘と後翅の大きさの割合まで精確に表現されています。正方形紙の不切一枚折でここまで到達された前川さんに脱帽！川畑さんのカミキリムシも拝見。体長の2倍もある触角も不切一枚折で表現され驚嘆しました。甲虫の触角の節は通常11個で、川畑さんの作品では10個でした。11個のものを送ると約束して下さいました（まだ頂戴していません。川畑さん、約束ですぞ！）。「具象折紙」（「抽象折紙」に対し）の場合、作品の水準を高めるには対象の十分な研究が欠かせません。植田龍太郎先生は、正三角形紙で3弁のアヤメを作られました（1962.『植田龍太郎生活と意見』私家版、1975.『化学者植田龍太郎の意見』化学同人）。正方形では4弁になるからです。厳正折紙の立場では困難なものが自然界には多数あります。正方形の不切一枚折で多くの制約を克服しつつ可能性を追及する立場は貴重ですが、私の雪華は正六角形紙で折ります。雪華が正六角形だからで、正方形から折るにはまず正六角形を作らねばならず、裏側の余剰部分を引きずっていかねばなりません。連載の後半で触れる透かしパターンや隠れたパターンは、裏側や内側に隠れる部分を問題にするため、余剰部分を許容できません。雪華を不切一枚折で折るには正六角形紙を使わざるを得ません。正多角形紙までは厳正折紙の姿勢と本質的にはあまり遠

いのない行き方が可能だと思います。

＊

子供の頃から雪が好きでした。青春時代は雪山に魅せられました。富山に職を得た時、雪国に暮らす憧れに胸がときめきました。十数年前オタワで直径12～13ミリもある樹枝状結晶に出会いました。氷点下15度位の晩、見上げる私の肩に微かな金属的な音を立てながら積っていきました。

日本語には雪華という美しい古語があります。古河藩主土井利位（どいとしつら）は、150年以上前に『雪華図説』（正統）を著しました（1942. [復刻版、1978]. 『日本科学古典全書』第6巻；1982. 『雪華図説正統』[復刻版] 小林禎作＝雪華図説新考 築地書館）。鈴木牧之は『北越雪譜』（1936. 岩波文庫）に『雪華図説』の図を転載しています。カナダの農夫W. A. ベントレーは、生涯に6千枚に及ぶ雪華の顕微鏡写真を撮り、内約3千枚の見事な写真集『Snow Crystals』が1931年に出版されました（今もDover社から廉価版が出ています）。人工雪の生成実験で有名な中谷宇吉郎博士は、ドイツ留学から帰朝直後その写真集を見て研究を開始、1949年『雪の研究』を岩波書店から刊行。本文61頁、図版319頁に1535枚の雪華の顕微鏡写真が載っている大著です。54年にハーヴァード大学から英語版『Snow Crystals』も刊行されました。岩波新書のロングセラーだった『雪』は最近岩波文庫になりました。博士の後継者故小林禎作博士も多数の著

作を出されました：『雪の結晶』（1970. 講談社）、『六花の美』（1980. サイエンス社）、『雪の結晶冬のエフェメラル』（1983. 北海道大学図書刊行会）、『雪はなぜ六角か』（1984. 筑摩書房）、『[雪]の結晶』（1991. 雪の美術館）。これらの書物で、雪華について多くを学び、高濱さんが紹介されたルイス・サイモンさんの作品を知らなかったなら折紙の世界にのめり込まなかったでしょう。

雪華は水の分子からできていますが、二つと同じものがないというのは驚きでした。1個の水分子と1個の雪華の大きさの間には大きな溝があります。水分子1個の大きさは0.2nm（ナノメートル； 10^{-9} m）、普通目にする雪華は小さいもので直径が2mm位。雪華を1辺2mmの厚さのない正方形とすると、水分子はその1辺に1千万個並ぶことになり、その2乗で何と100兆個の分子が含まれる計算になります。雪華は六角対称形で、典型的な樹枝状のものは複雑です。それが莫大な数の分子によって作られているわけで、水分子があまりに小さいため完全に同じに組み立てることは不可能なため同じ雪華はできないのです。融けてしまえばその形はこの世から永遠に失われてしまいます。それを惜しむのは自然でしょう。

私の雪華の折紙は、こうして実際の雪華について学ぶことを通して展開してきました。こういうやり方が誰にも有効かどうかはわかりませんが、それが作品細部に反映されることは必然です。対象を模する以上、具象折紙における基本的な方法となるといってもよいのではないのでしょうか。（つづく）



『Snow Crystals』より

折紙辞典

折紙辞典編纂室編

主幹

前川淳

か-こ

かさはらくにひこ【笠原邦彦】《人名》 折り紙作家。著作数は数え切れず、現在の折り紙の隆盛に与えた影響は計り知れない。1ヵ月で3冊の本を書き上げたという伝説を持つ。
かためんせい【片面性】《名》 そばの茹で方とは関係はない。基本形などで、紙の片面がすべて外側に、もう片面がすべて内側になっている性質をいう（伏見康治）
かぶせおり【かぶせ折り】《名》 谷折りの一部分を山折りに折り変えることによって作られた折り目の構造。かぶせ折りと中割折りの関係は、認識論で有名な「うさぎ・あひる図形」に似ている。



かぶせ折りか？ 中割折りか？



あひるか？ うさぎか？
どちらにしてもマヌケな顔だ

かみ【紙】《名》 植物などの繊維を漉いてシート状にしたもの。次ような用途がある。(1)同人誌を印刷する (2)数々の折り目をつけたのち痕癩を起こして丸めて捨てる (3)屑かごから拾いだして古紙交換に出す→再生する→(2)に戻る

かやらくさ【かやら草】《固有名》

江戸時代後期の記録魔・足立一之氏が様々な書物を写しに写した複写文献集。折り紙に関する記述を含む。かわいとよあき【河合豊章】《人名》 折り紙作家。風貌の与えるインパクトにかなりのものがある。なお折り紙作家というのは折り紙の収入で家を作ったひとのことである。

かわさきていり【川崎定理】《名》

川崎敏和氏による定理。(1)「一面に折り畳める折り線において、平面上の1点の周りの折り線がなす角度をひとつ置きに加えると180度になる」(2)「川崎敏和氏において、数学理論の厳密さと日常生活のおおざっぱさのなす角度が180度になる」

かわはたふみあき【川畑文昭】《人名》 不切正方形一枚折りの作品を次々に繰り出す作家。自動車不況による減収を「恐竜のおりがみ」の印税で補填した(らしい)。

きかがく【幾何学】《名》 (1)何人かの折り紙研究家にとって折り紙の本質とみなされるもの (2)多くの折り紙愛好家にとって煩わしいもの (3)まあまあ、両者とも仲良くしましょう。

きかん【季刊】《名》 3ヵ月に1回の間隔で刊行されること。3.3ヵ月に1回の場合もある。

きく【聞】《猫名》 長野県八坂村の布施知子氏宅で生活する猫。折り紙には何の関係もないが、前回山口氏の飼い猫「おりお」を出した関係上、出さざるをえない。

きしよ【稀書】《名》 岡村昌夫氏と高木智氏しか持っていない書籍。きのしたいちろう【木下一郎】《人名》 折り紙界の長老格にして最も稚氣あふれるひと。

きほんけい【基本形】《名》 折り紙の工程において頻繁に現われる幾何的な形。次の3種類がある。(1)応用範囲が広い (2)応用範囲が広そうだが実は大したことがない (3)えっ、これも基本形なの。

きむらよしひさ【木村良寿】《人名》 初代折紙探偵団団長。折りやすく端正な作品、木で鼻をくくったような物言いなどに定評がある。

きょうりゅうおりがみさんにんてん【恐竜折り紙3人展】《固有名》

木村良寿、西川誠司、吉野一生の3

氏によって行われた展覧会。同展覧会が折紙探偵団結成の母体となったため、3氏は、折紙探偵団のビルグリムファーズ、折紙探偵団三聖人、折紙碧の三悪人等と呼ばれる。きりこみ【切り込み】《名》 材料面が不連続となるまで破壊が進んだ状態。折り紙においては次の3種類がある。(1)効果的 (2)苦しまぎれ

(3)何だかよくわからない

くいつく【qwic】《名》 円が内接する四角形(quadrilateral with intrinsic circle)を表わす略語(伏見康治)

4本の折り線で各辺が一直線上になるように折り畳むことができる。受験生のみなさん、「早い」は「quick」です。間違えないようにしましょう。

くろーずどしんく【closed sink】《名》 ロバート・ラング氏が多用する紙を開かずに行う沈め折り。「閉じたへこみ」という訳を見たことがある。「密閉した流し台」よりはまともである。

げんし【原子】《名》 折り紙の展開図において、折り線に囲まれ内部に折り線を持たない図形。原子を描いて作品を設計することを原子描く理論(げんしかくりろん)という。

こうじげんおりがみ【高次元折り紙】《名》 3次元以上の空間を折り畳む折り紙。宮崎興二氏は、3次元立体を折り畳む折り紙を、4次元内で折り畳むとの意味で「4次元折り紙」と呼んだ。「4次元の折鶴」は諸説あるが、一説では、羽が4つ、首と尾(脚)がそれぞれ2つとなる。なお、バカバカしくて笑ってしまう折り紙は「低次元折り紙」という。

こだましりょう【児玉資料】《固有名》 長崎の故児玉一夫氏が蒐集した折り紙に関する文献その他。折り鶴をあしらった広告のチラシまでも含む徹底振りは脱帽するほかない。

こんぴゅーた【Computer】《名》 ただの製図に使っていても「コンピュータを使った折り紙ですか」と感心される機械。

こんべんしょん【Convention】《名》 ひとが集まってバカ騒ぎをすること。

こんめい【昏迷・混迷】《名》 記事の内容をまともなものにするか、おふざけにするか、方針が定まらないこと。

「たたうがみ」について

平安時代の文献の中に折り紙のルーツらしきものを探してみても、確かなものはまず見つからない。「ひとかた」にしても、紙で作ってはいなかったと思われる形跡なら状況証拠がいくつかあるので、これはまた別の機会に書きたい。

「ひとかた」から「紙ひな」が生まれて云々などということ平安時代の事実のように言う人がいるが、時代を数百年も間違えているとしか思えない。

今回は、折り紙のルーツとしての可能性がある「畳紙」（「たたみがみ」普通は音便で「たたうがみ」という）について書くことにしよう。簡単に言えば、「たたうがみ」は畳んで懐中に入れておく紙である。和歌をちょっと書き付けたり、簡単な手紙を書いたり、鼻紙にしたり、いろいろ便利に使った紙であるが、それを重ねて挟んでおく厚紙（みちのく紙など）を二つ折りにしたものが、それを「たたうがみ」と呼んだ。つまり、懐紙と懐紙挟みの両方を指す言葉であった。大切なものを持ち歩くときに挟んだり、扇子なども入れておいたようだ。

「平安時代の畳紙」

『源氏物語』にはよく出てくるがもっぱら歌を書き付ける用紙である。『蜻蛉日記』天祿2年6月の記事に葉を「たたうがみの中にさし入れて」寝室の敷物の下に夫が置いたままにしてあったので「やがてたたうがみの中に」和歌を書きつけたことが書かれている。葉がさし入れてあったのは懐紙挟みの方なのか懐紙なのか。懐紙挟みには金銀箔を散らした立派なものがあったらしい。

『狭衣物語』巻一に「経紙にやあらむ、泥のつきたるぞありける、たたうがみに」とあるのは、写経用紙を代用したものだろう。「泥（でい）」は金銀箔をすり潰してニカワを混ぜた絵の具である。同じ物語の巻三には、女が隠れて障子の掛け金をかけてしまったので、透き間に「たたうがみをさし入れて」はずして開けるところがある。これも鼻紙のように薄いものではなくて厚目の紙で

あろう。

『篋物語』では、妊娠中の愛人が食べたがるので、宴会に出された橘の実を「二三ばかり、たたうがみに入れて」と書かれているが、これは包んだということだろうか。

面白いのは『古本説話集』に有名な色好み「平中」と呼ばれる男の挿

心憂くて、そののち空泣きの涙、丁字含む事、とどめてけるとぞ。」この畳紙は、鼠の糞を入れたというのだから、いずれにしても携帯用の包みか紙入れのようなものだったのだろうか。

『宇津保物語』あて宮の巻に、数々の豪華な線入り道具を列記した中に「御鏡、たたうがみ、齒ぐろめよりはじめて、一具。」とあり、女性用の化粧道具などの小物を入れる美しい「たとう」

もすでにあったのではないかと想像されるのである。

以上は10世紀から12世紀ごろの状況である。

「たたうがみ売り」の図

明応9（1500）年に成立した職人尽し絵（七十一番職人歌合）の中に「畳紙売り」の姿が描かれている。その原本の絵は土佐光信の手になると伝えられるが、現存している最も古い写本は百数十年後に後水尾天皇が写させて加賀の前田家に下賜されたという、美しく彩色されたものが前田育徳会文庫に蔵されている。その他の写本や板本は各種あって、絵の内容はほぼ共通している。ここでは板本（国会図書館蔵）の図版を掲載したが、育徳会本で見ると畳紙は朱の地に金泥で唐草のような模様が描かれている。「たたうがみ召せ。色もよくいできて候ぞとよ。」という詞もあり、現代でも用いられている香包みにそっくりなものであることがよく分かる。3枚ほど重ねた用紙の2つの角を見せるような飾り折りである。この歌合せは当時の貴族が職人の立場になって「月」「恋」の題で詠んだもので、畳紙売りの歌は「畳紙みがき打ちたる切り箔の光ことなる秋の夜の月」「忘れめや綺殿に染むる畳紙しなやかなりし人の手ざはり」とある。「綺殿」は「城殿」とも書き「きどの」と読む、京都で有名な扇や畳紙などの専門店であった。その他、熊野速玉大社（新宮）の御神宝の中に15世紀のものという赤い畳紙があるそうであるが「たたうがみ」（後に「たとう」となる）は確かに初期の折り紙として注目すべきものであろう。

おりがみ庵

ひとりごと

岡村昌夫

第19回

話がある。女のところで空泣きをする時の準備としていつも「硯瓶」に水を入れて携帯し、また、口中を爽やかにするための香料（また媚薬）として「丁字（ちょうじ）」を「たたうがみ」に入れていたのを妻が発見して、ひそかに水を墨汁に、丁字をネズミの糞に取り換えておいた。

「夜明けて見れば、袖に墨ゆゆしげにつきたり。鏡を見れば、顔もま黒に、目のみきらめきて、我ながらいと恐ろしげなり。硯瓶を見れば、墨をすりて入れたり。たたうがみに鼠の物入りたり。いといとあさましく



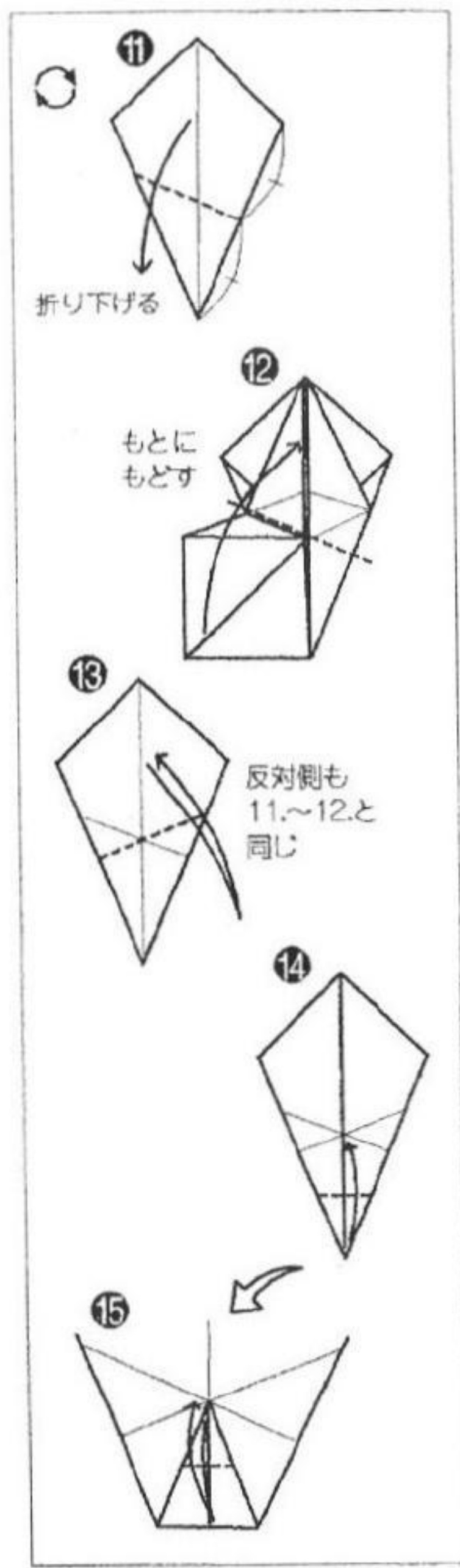
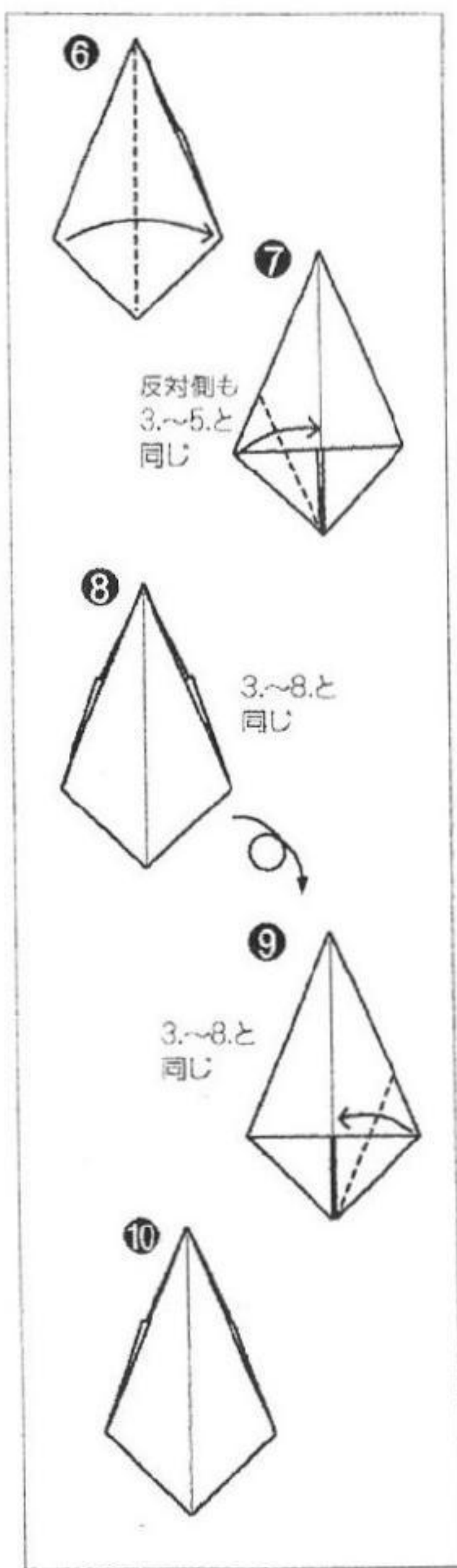
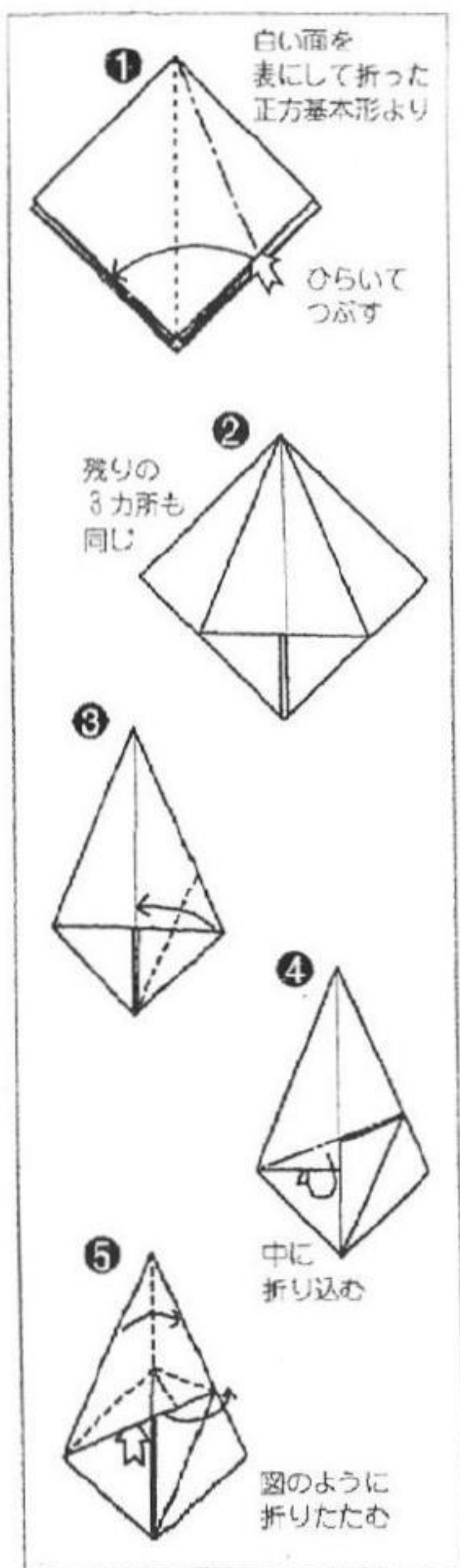
今月の給食

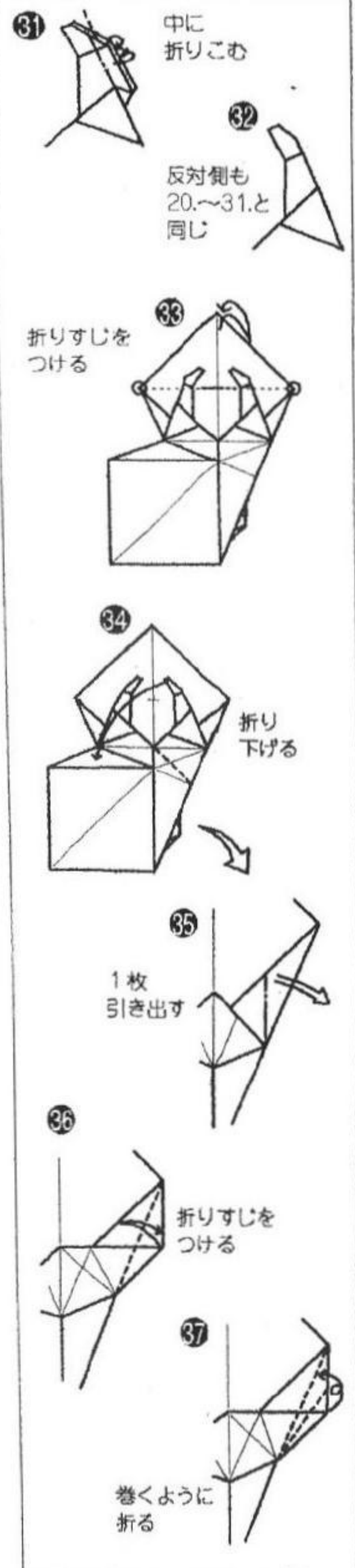
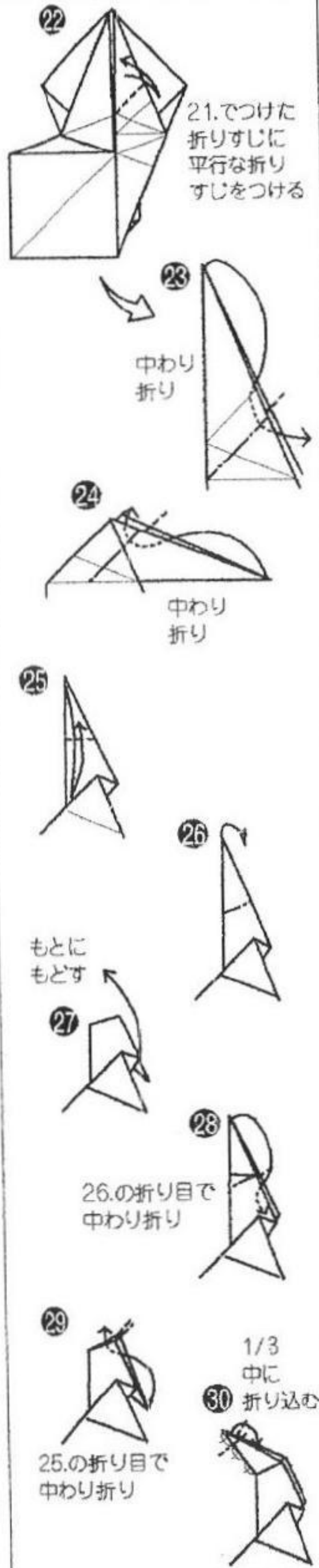
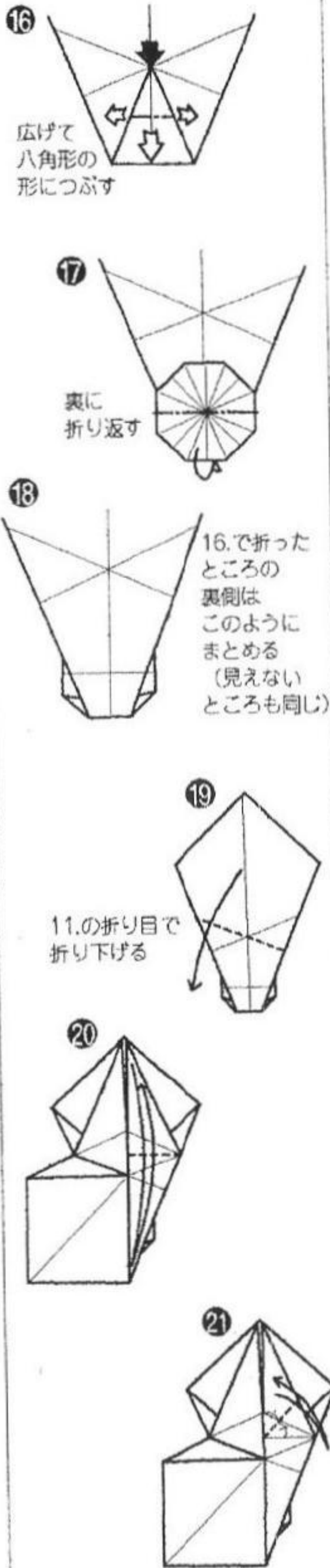
洋式便器

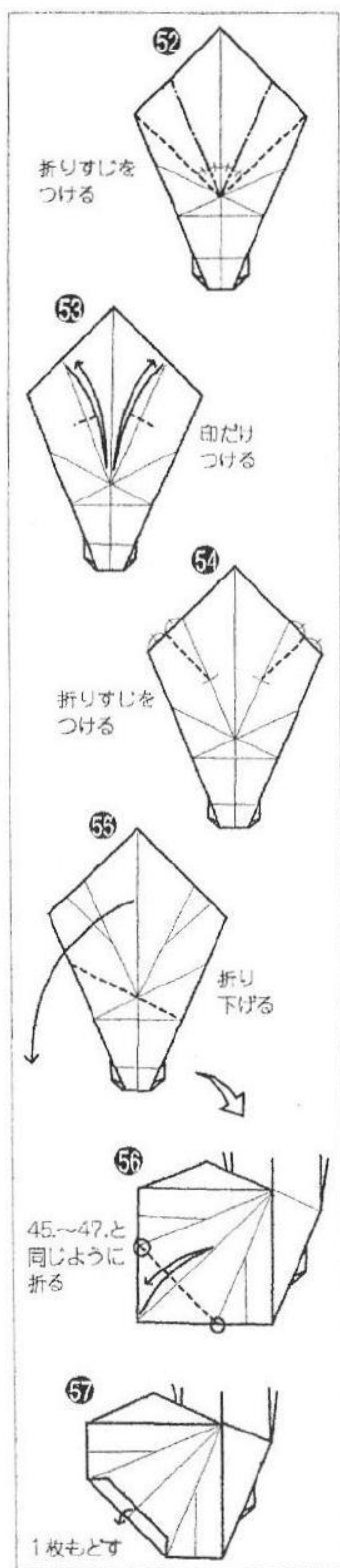
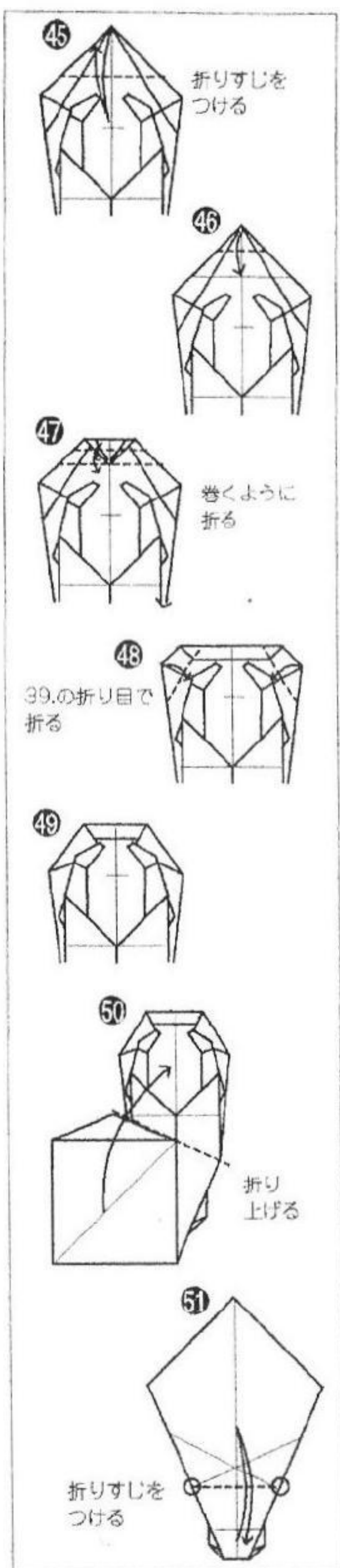
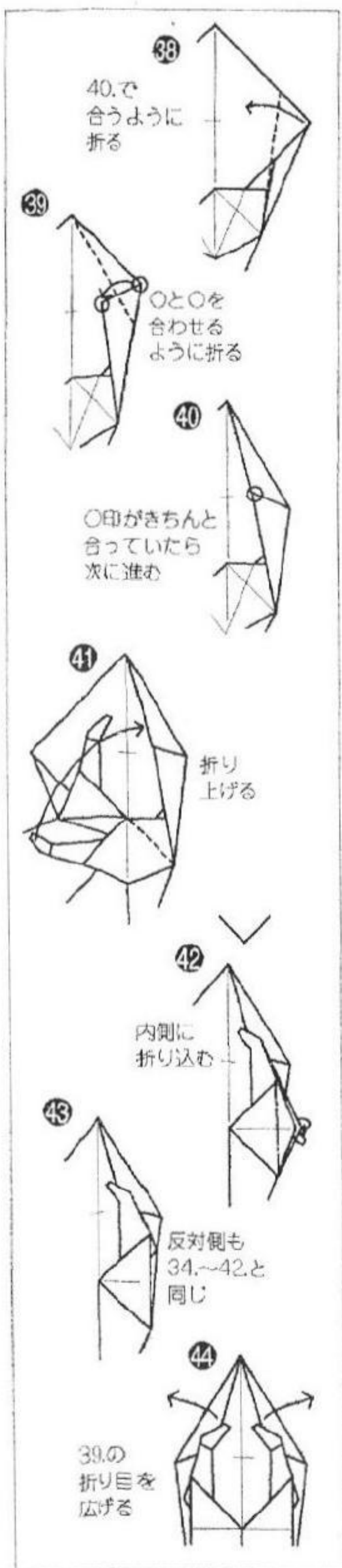
この作品は、ぼくの最高傑作です。と同時に、おそらく折り紙界の中で一番汚い、前代未聞の作品だと思います。

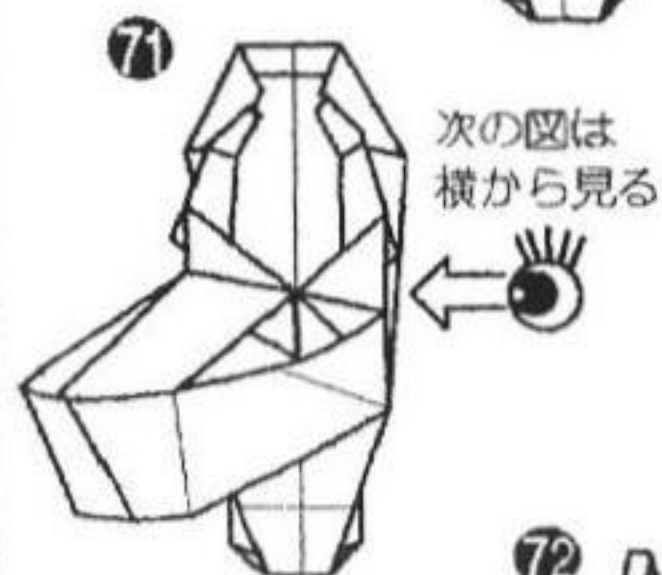
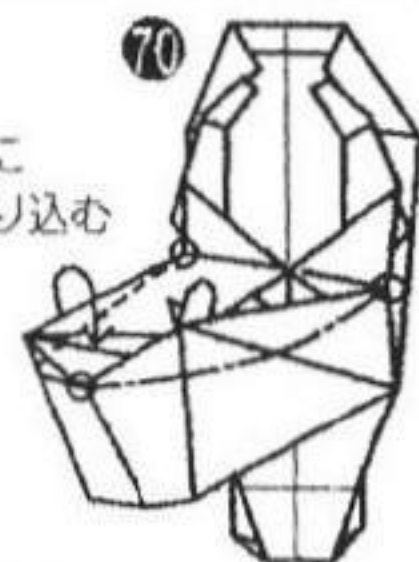
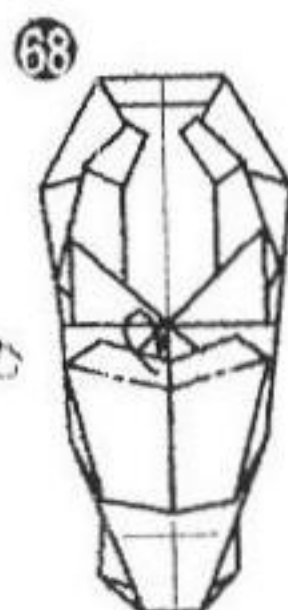
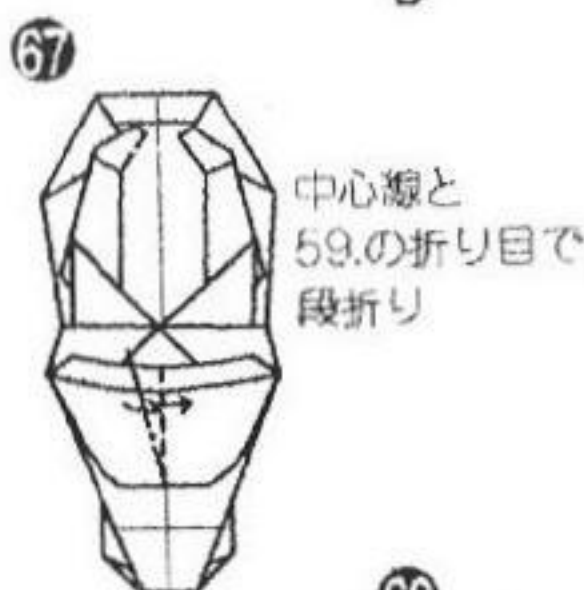
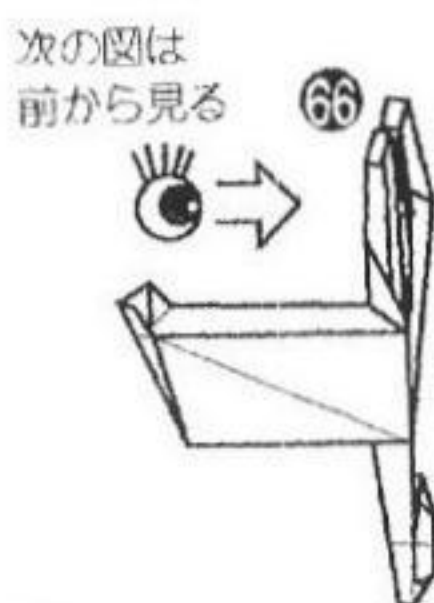
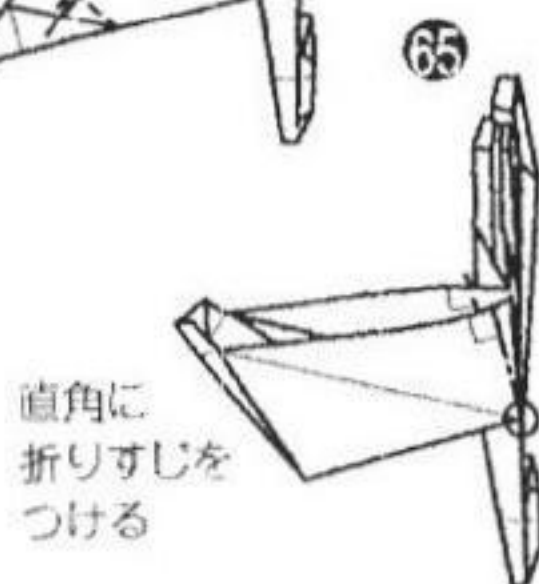
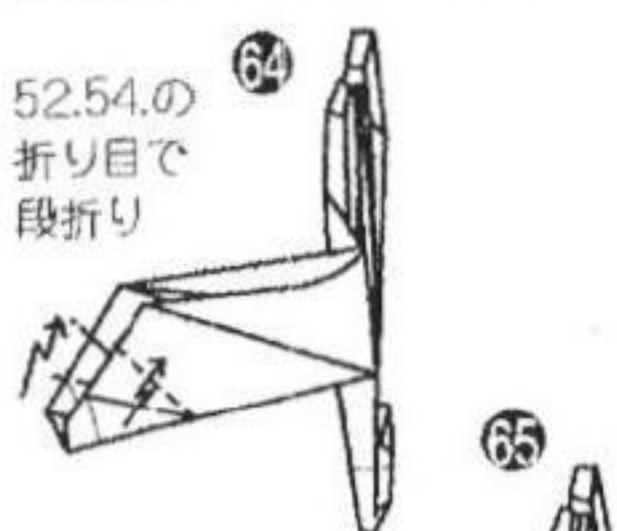
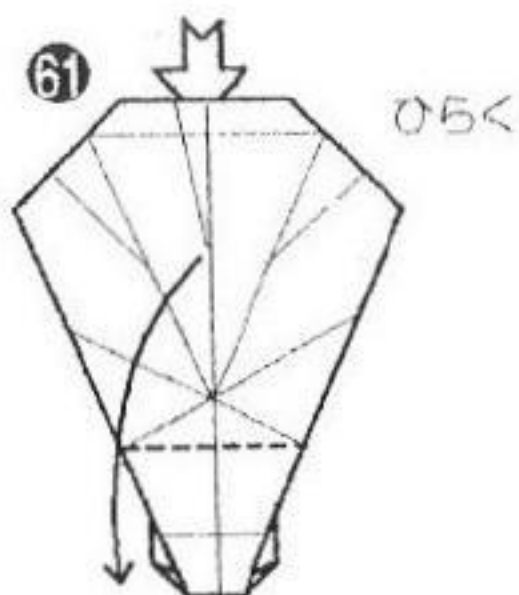
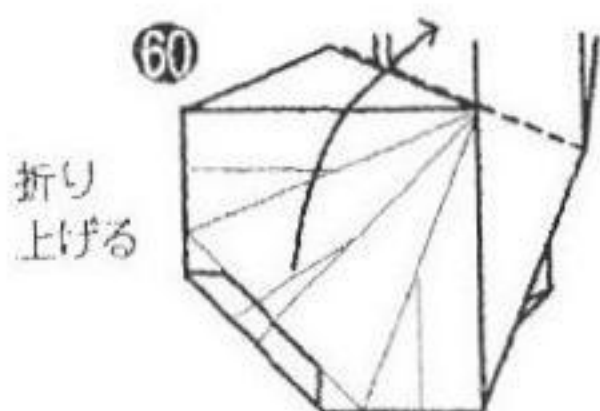
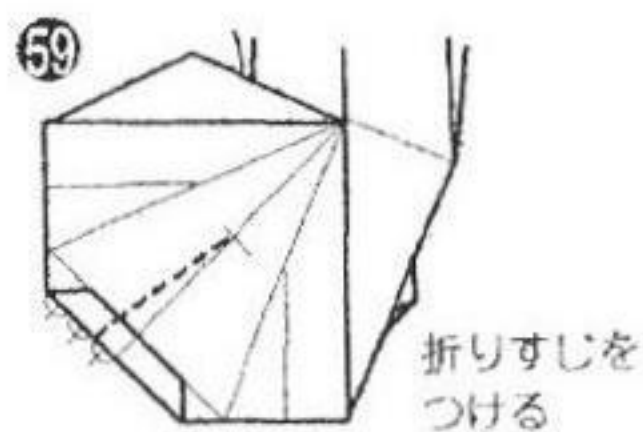
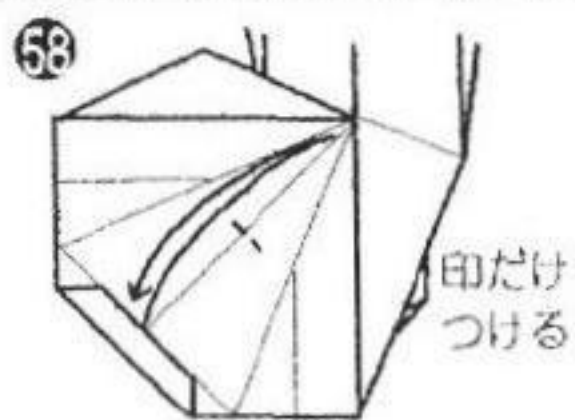
中学2年
木下剛・作

折紙探偵団の皆さんこんにちは。給食係の木下剛です。前にこの便器の折り図を探偵団に送ったときには初めて書いた折り図ということもあって、「もう一度きちんと書いて出して下さい」と言われたので、今回は道具もそろえて、二ヶ月かけてきれいに仕上げました。自分ではいい出来だと思っています。探偵団の皆さん今回の折り図は解りやすいと思いますので、どうか一度は折ってみて下さい。（編集部注＝木下君自信作の折り図ではあったのですが、レイアウト、文字などの関係で、できるかぎり忠実に、編集部の方でトレースさせていただきました。）

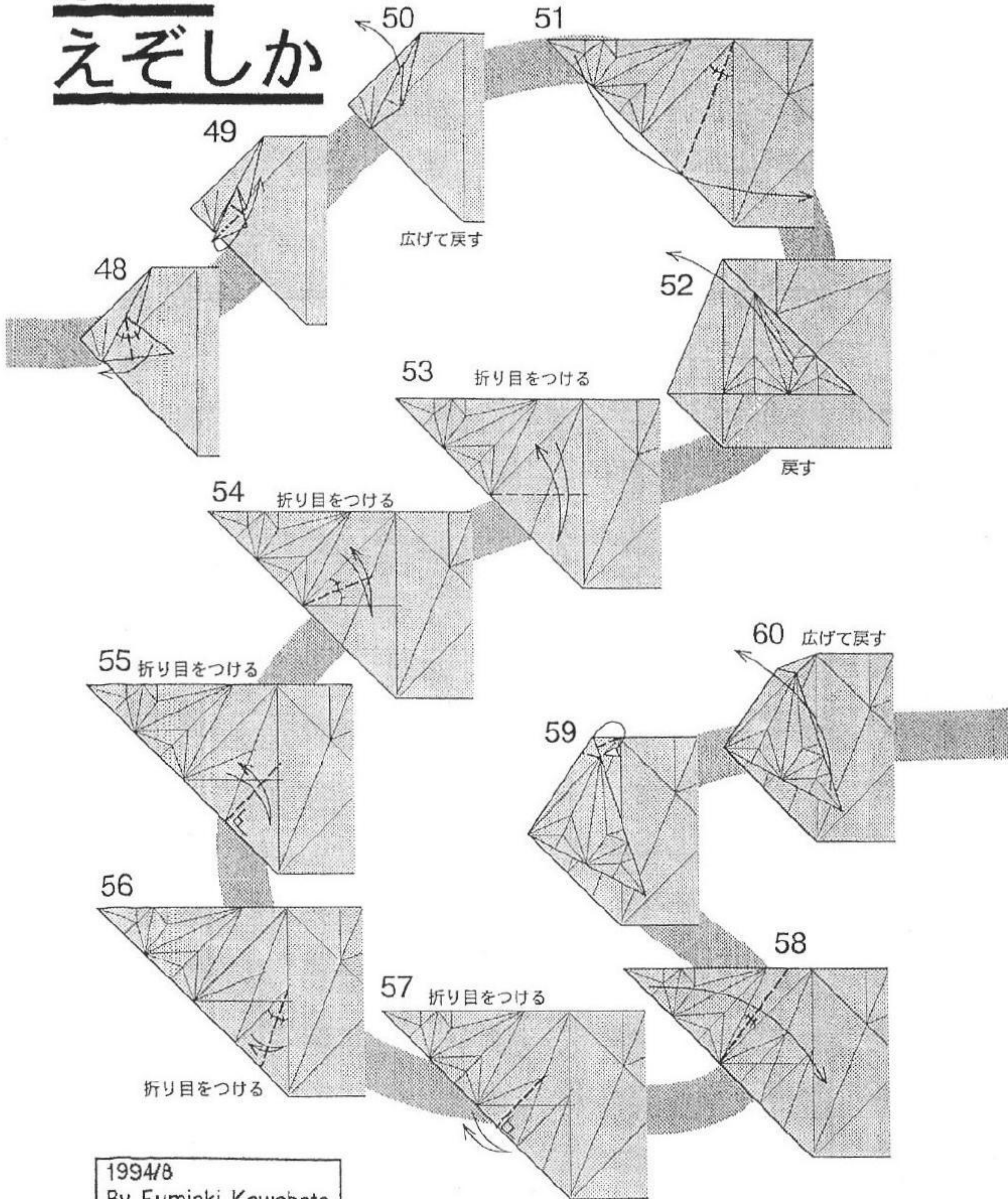








えぞしか

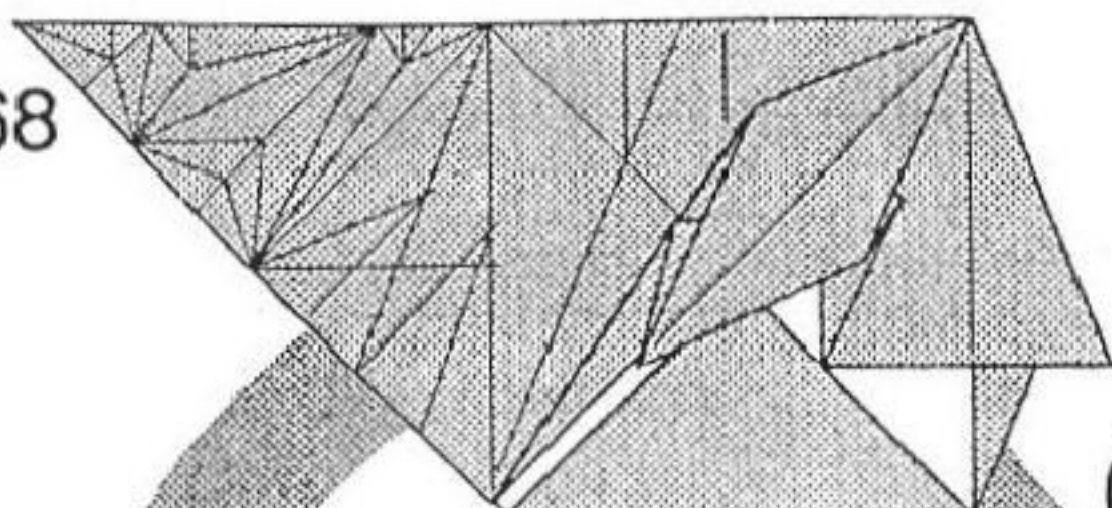


1994/8

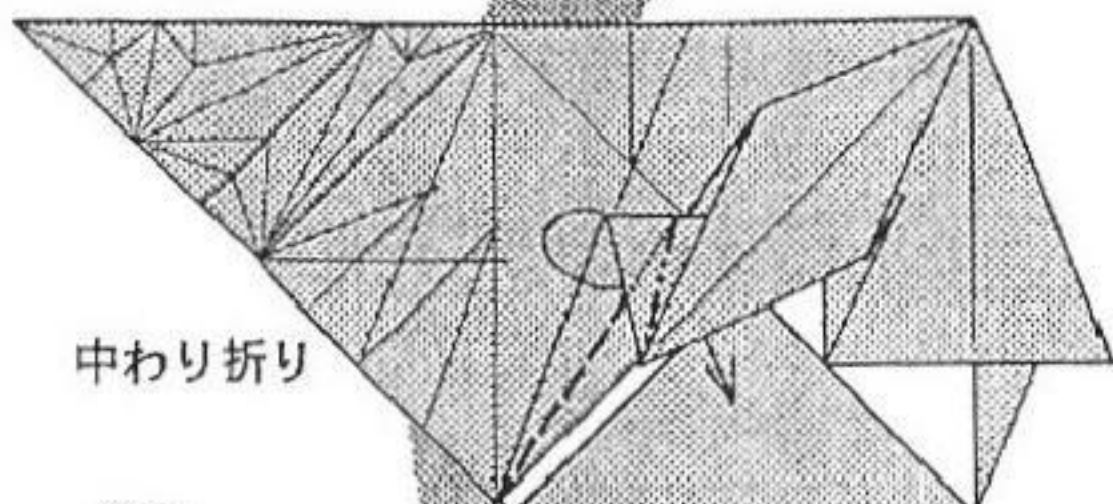
By Fumiaki Kawahata

川畑文昭

68

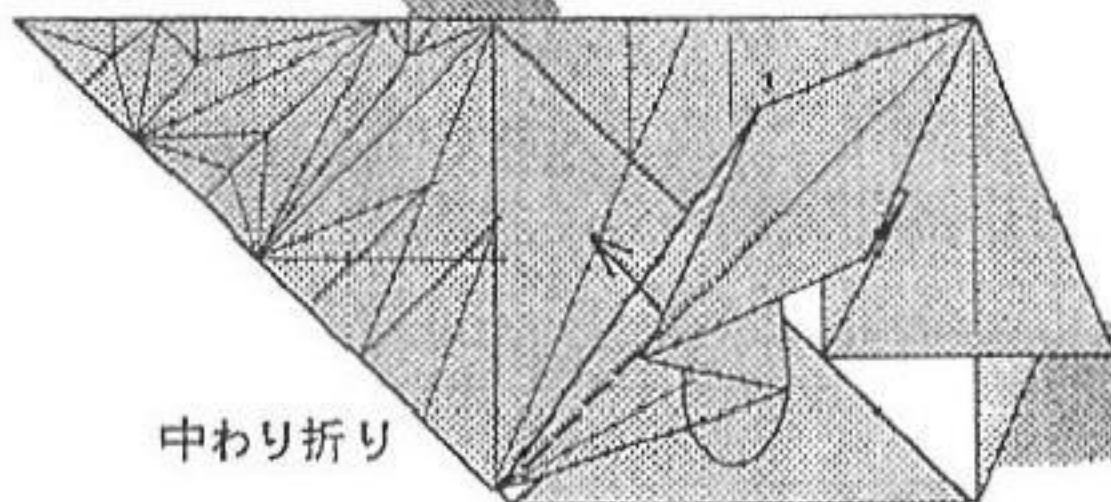


67



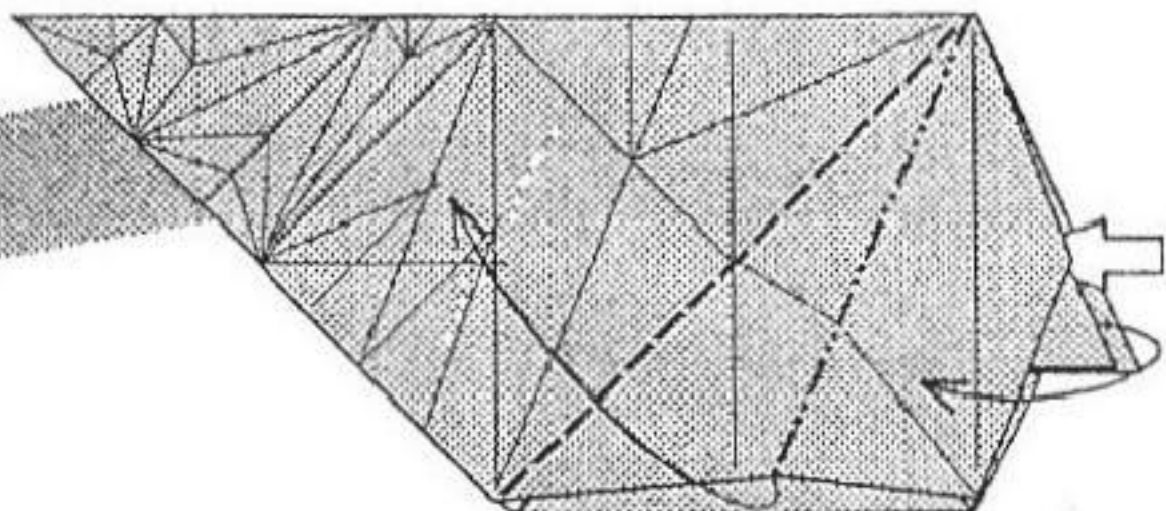
中わり折り

66

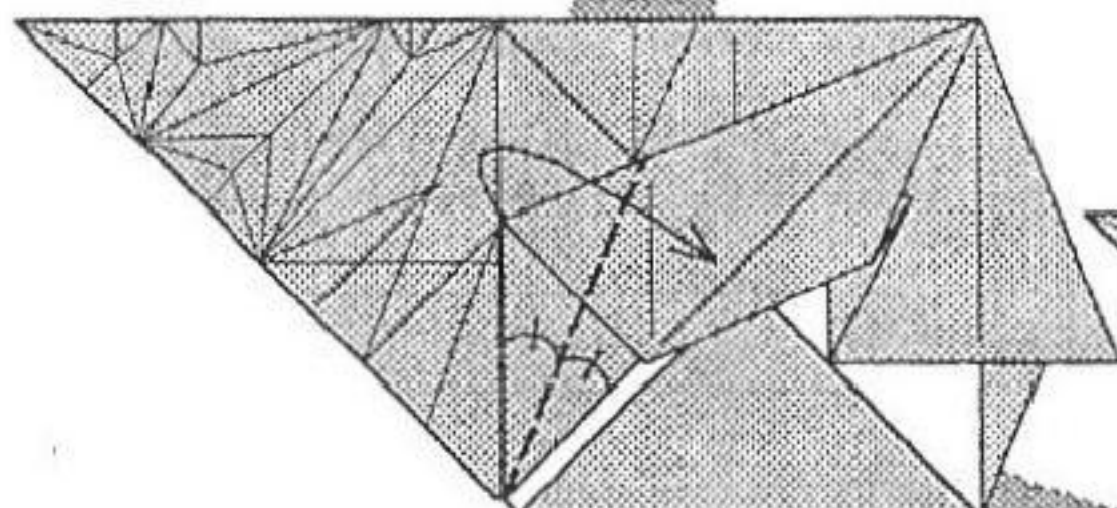


中わり折り

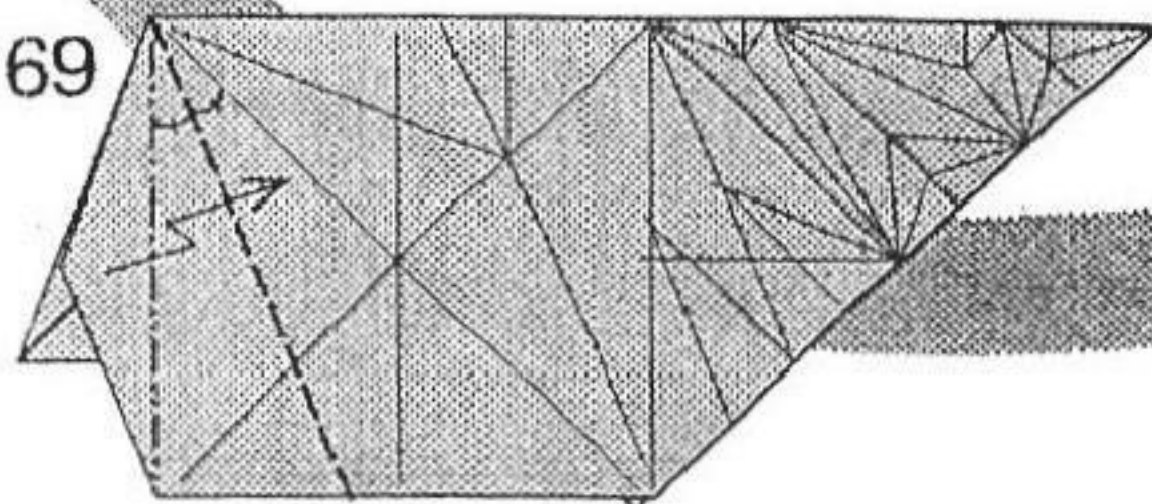
61



62



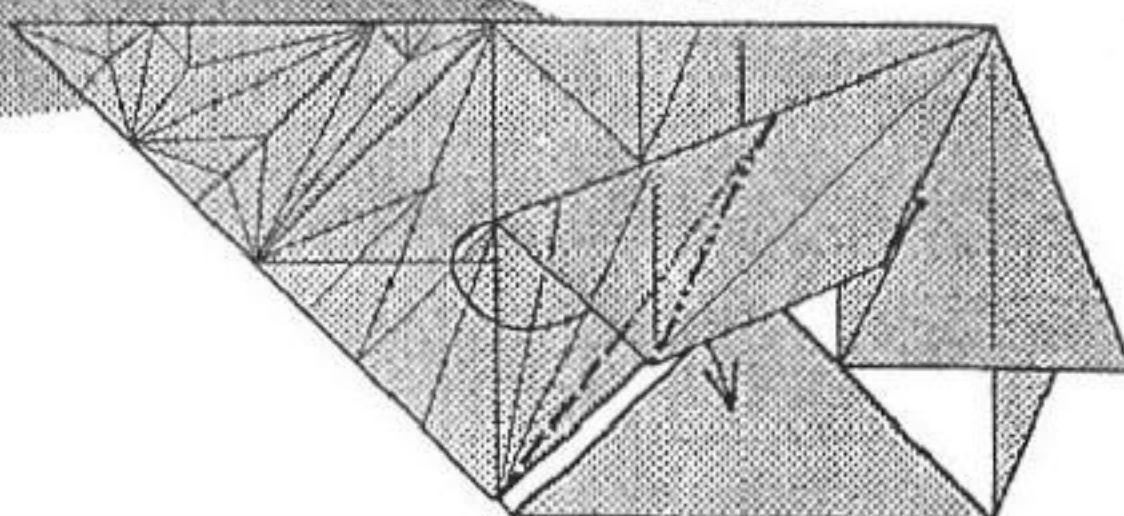
69



全体を重ねた
まま段に折る

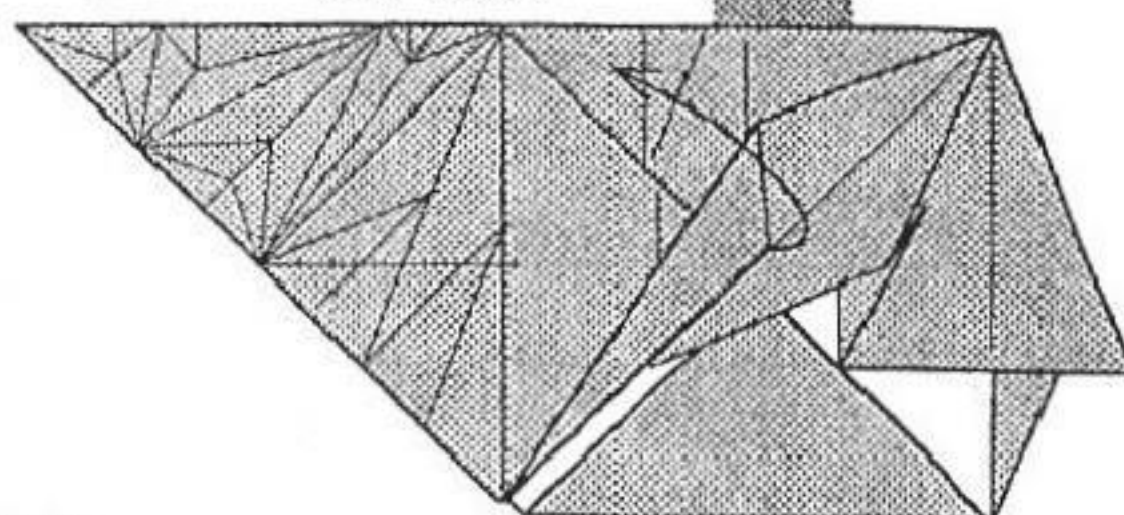
65

中わり折り

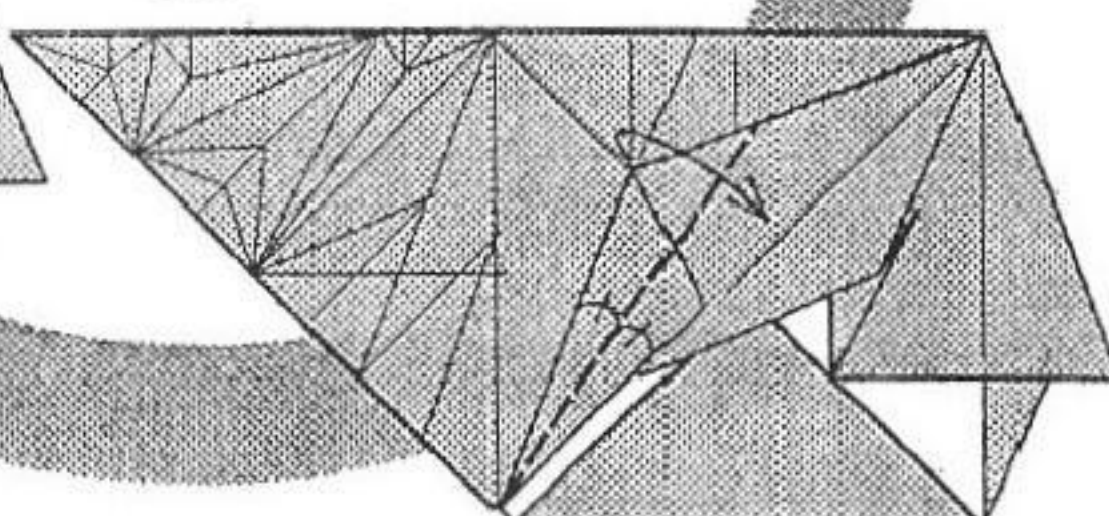


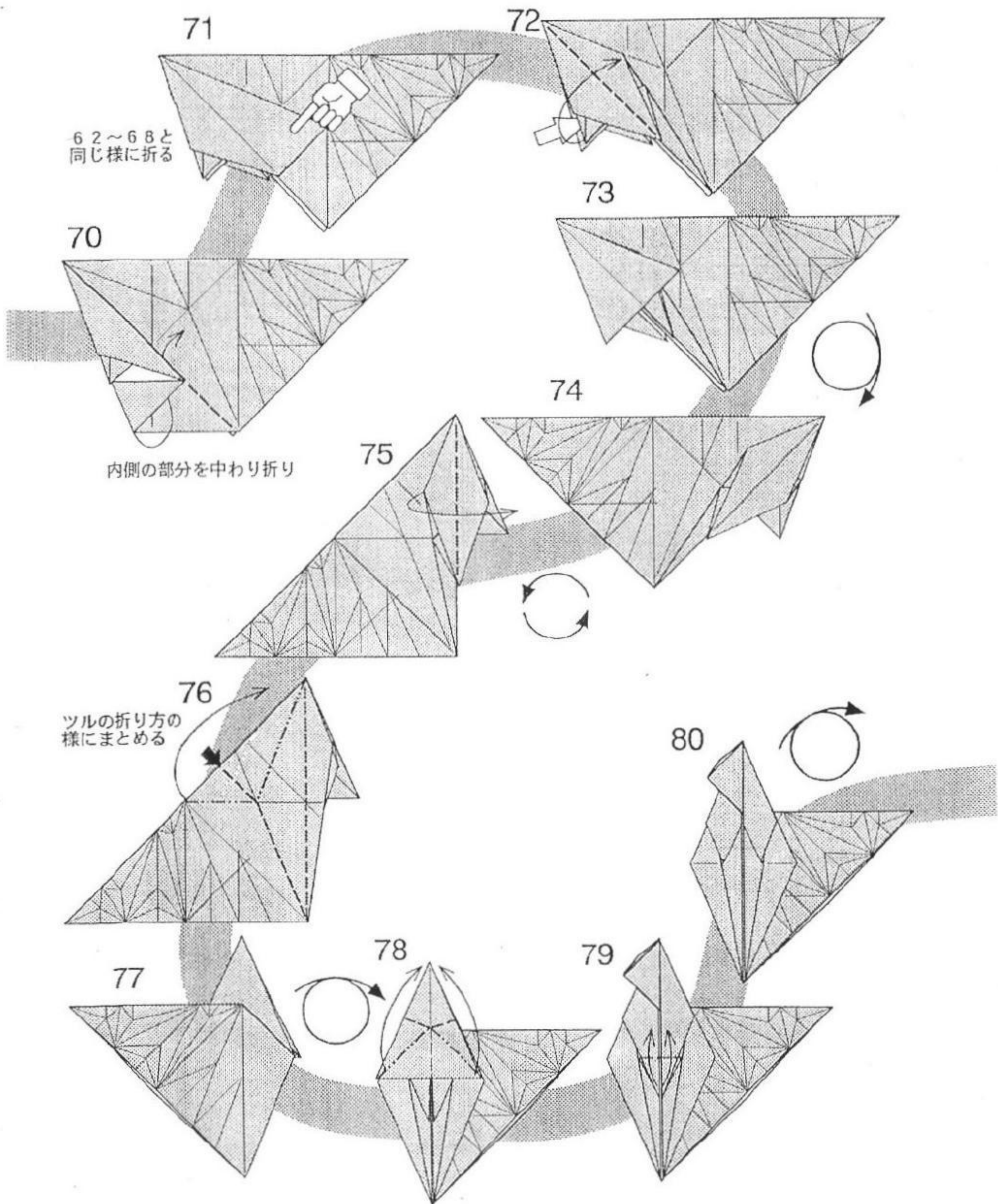
64

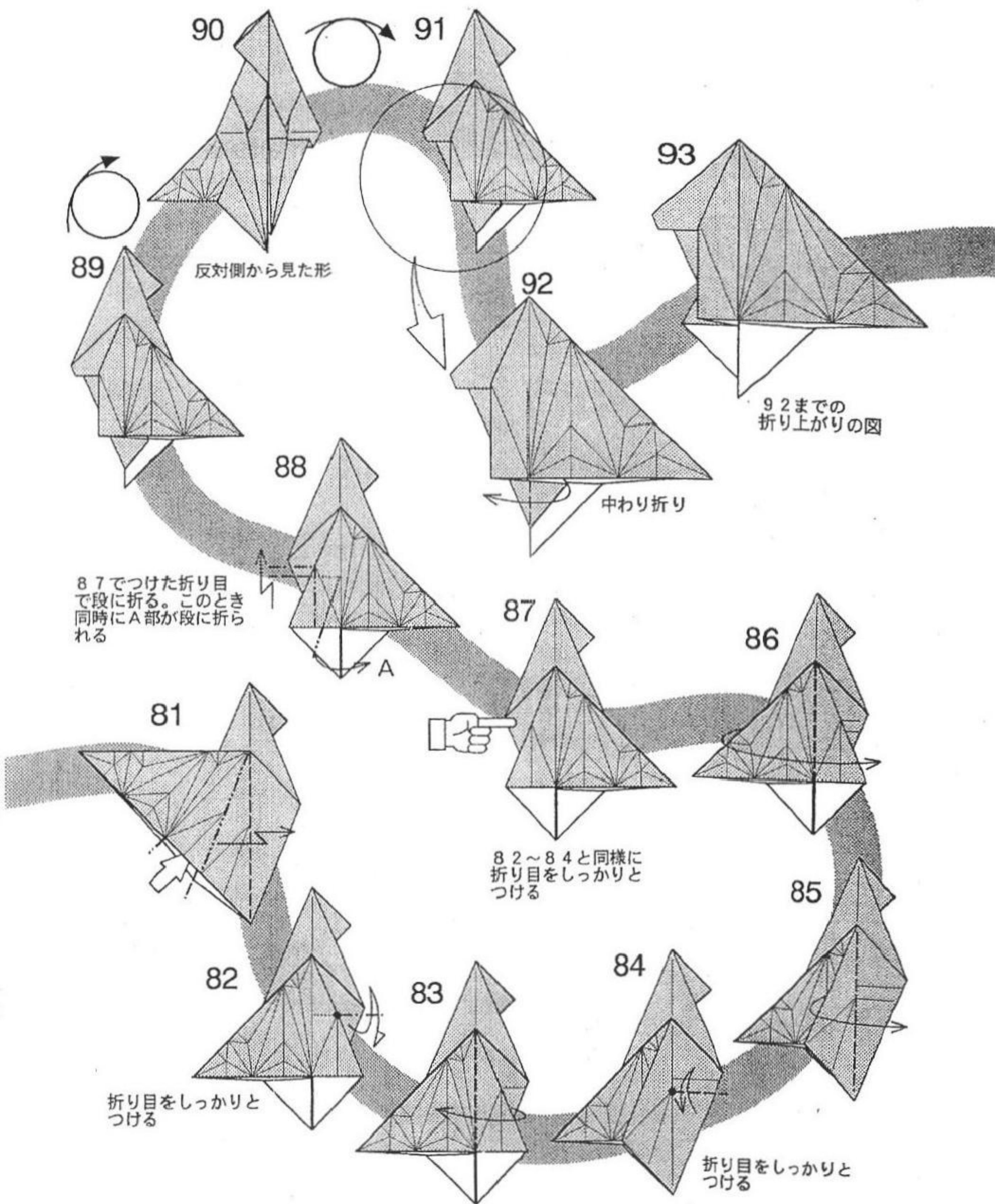
広げて戻す

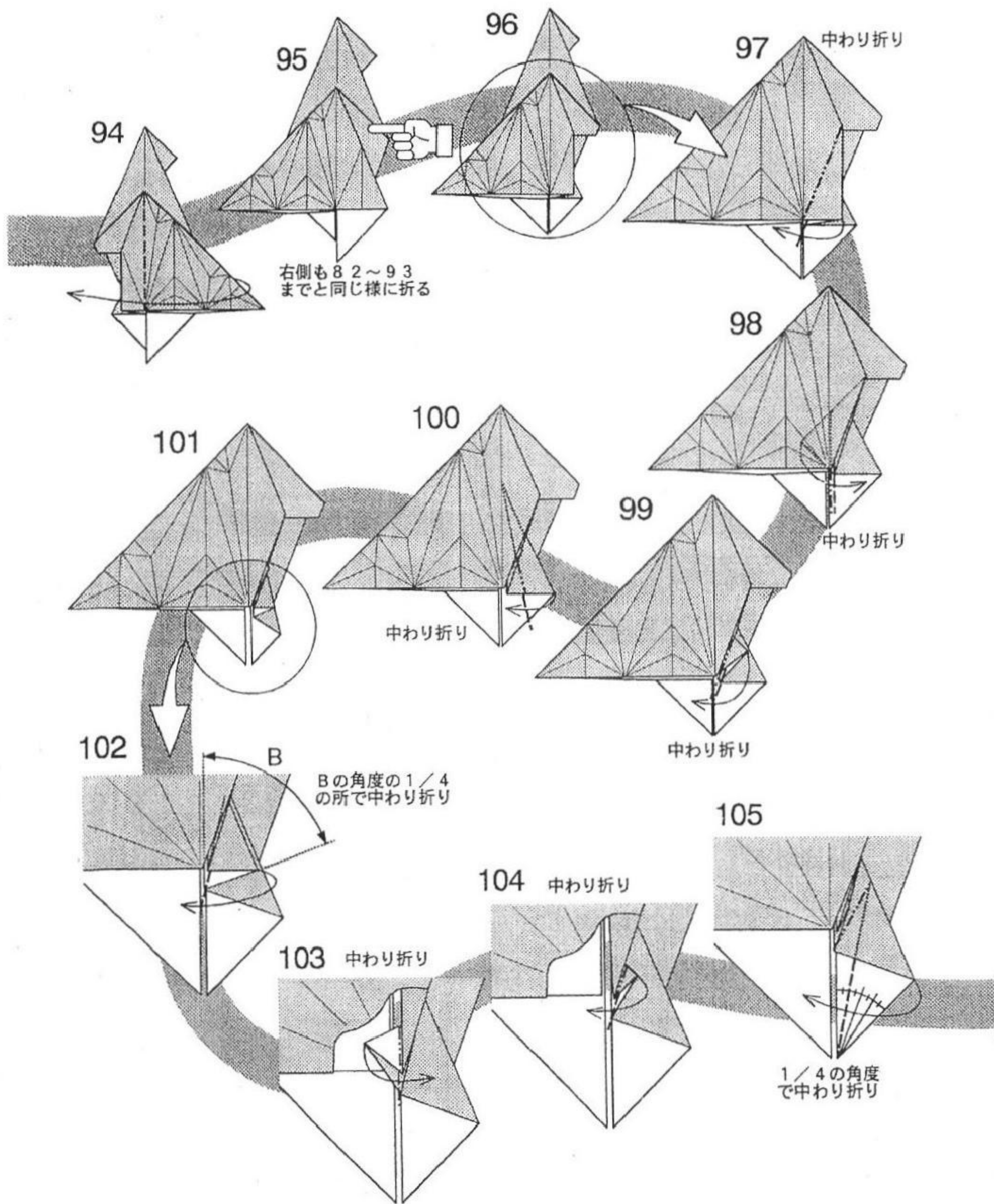


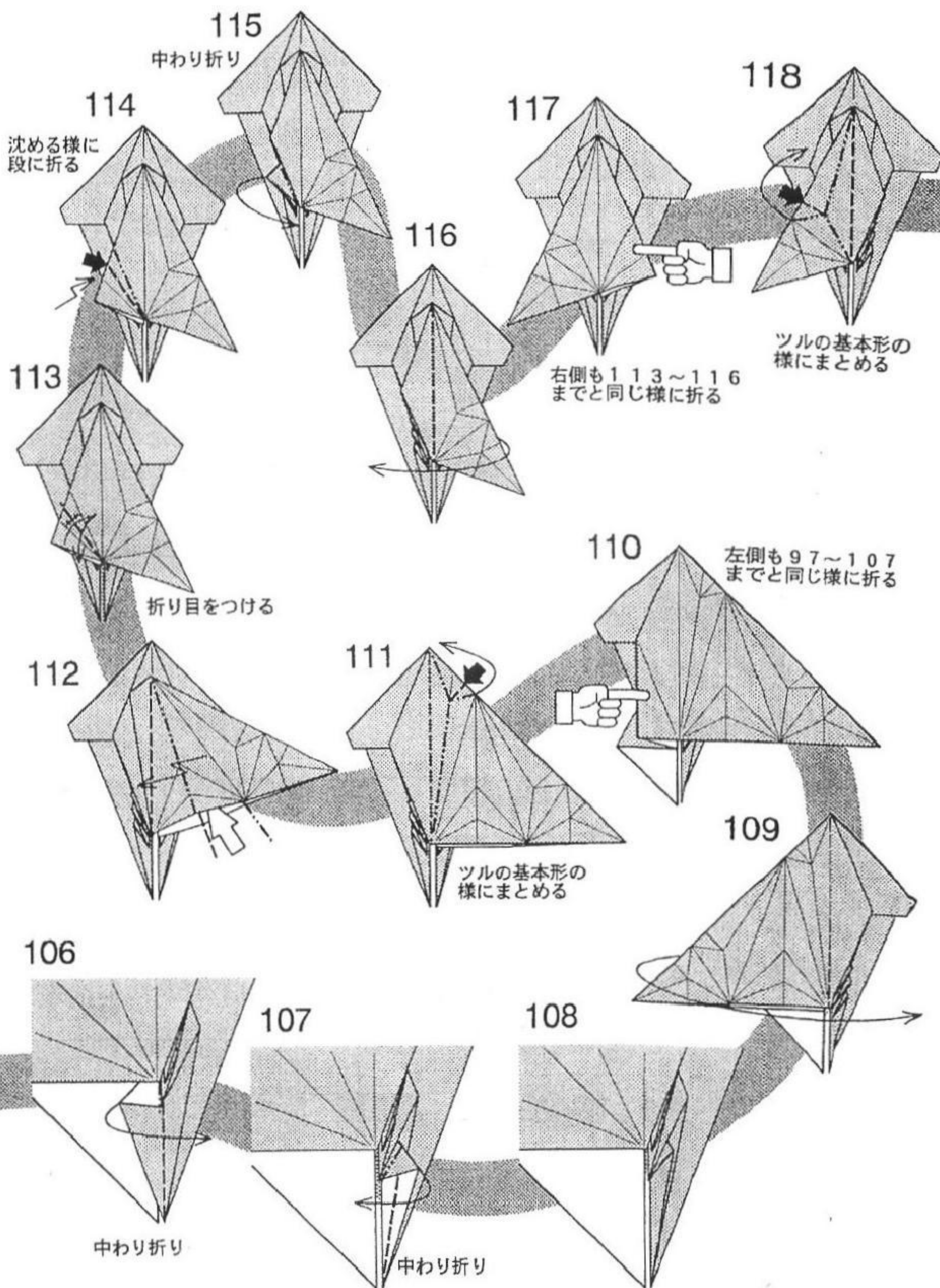
63











ORIGAMI on the Cathode-Ray Tube

探偵団に
入ったら



君も
テレビに
出られる

ブラウン管の上の折紙

文・羽鳥公士郎

オリガミアンは日陰を好み、群れを作らず単独で生活する、というのが学会の定説でありましたが、悪魔の魔力が多く個体に突然変異を引き起こし、折紙探偵団という劇団が結成されたのが5年前。今年になってさらに急速な進化を遂げ、この半年で4つのテレビドラマに出演するまでになりました。これは探偵団に送り込まれた2人の魔人、大魔人Wと小魔人Oが密かに悪魔の封印を解いたため、というのが最も有力な仮説であります。小魔人Oの魔力は探偵団のエンゲル係数を上げるだけではないかもしれません。

まず柿落としてはテレビ東京で放送された『ファミリー東京-おりがみの達人たち』。冒頭は文京区民センターでの例会の情景。いきなり山田氏の『なかよしの花と豚』が画面に映ってしまったので、この番組は成人指定になってしまいました。

間髪を入れずに北條氏の『かぶととくわがた』が登場しますが、こちらは仲が悪いのでモザイクは必要ありませんでした。その北條氏、名前が「北条」となっていたり、4年なのに3年だといわれたりして、立腹のあまり髪の毛が逆立っておりまして。番組の中でこれからは芸術作品のパロディをつくると宣言していた北條氏、進展の具合はいかがですか？「全然やってないです。だれか時間をください。」



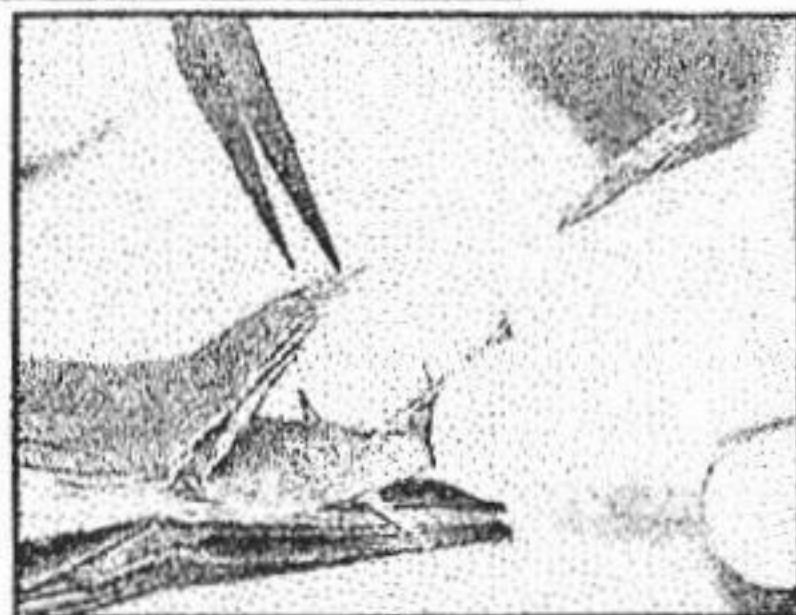
怒髪天を突く北條氏

ファミリー東京 95年1月26日放送

続いて登場は岡村氏、折り紙の歴史を喋らせれば右に出る者も左に出る者もない岡村氏のことですから、当然折り紙の歴史をお喋りしておられました。折り紙は江戸時代から大人の遊びだったそうです。昔は歌舞伎で今はなかよし…。ところで岡村氏、歴史を調べ始めるきっかけは？「忠臣蔵や千羽鶴は、文学的な視点から見ると実はおもしろかったんです。」なるほど、番組の中でもオリガミアンには文系が少ないと嘆いていました。

オリガミアンのオスには2つのタイプがあることが知られています。結婚の意思がなく独身生活をエンジョイしている孤独相と、美人の妻をめとって結婚生活をエンジョイしている群生相。近々西川氏が孤独相から群生相に変態しようとしています。典型的な群生相の前川氏は配偶者同伴で登場しました。前川氏の折り紙が枝分ればかりするので奥様は折ろうと思わないそうですが、奥様に折ってあげるなんてことはあるんですか？「ほとんどないですね。そもそも僕はあんまり折らないんですよ。」

最後のシーンは再び探偵団の例会。このときは小魔人が参加していなかったもので、机の上には食べ物ではなくて折り紙が置いてありました。続いて第2弾は、テレビ朝日系列で放送された『紺野美沙子の科学館-伝統！最先端の折り紙』。紺野さんが設計図を書いて折っていくと、ラング氏の『飛ぶカブトムシ』が完成！なんてはずはなくて、スローで見るとピンセットが見えるのだ。ということは、あの折っている手は羽鳥氏ですね？「そうです。途中まで折ったのをいくつか用意したんですよ。」その羽鳥氏、モーツァルトを聞きながら2時間かけて折った『飛ぶカブトムシ』をレポーターの田上さんにひろげられてしまいました。羽鳥氏呆然。



せっかくきれいに折ったのに



あっと言う間にこの通り

紺野美沙子の科学館 95年3月11日放送

田上さんは梅寿司を後にして前川氏の愛の巣へやってきました。ここで科学館らしくなって、前川氏が『ビバおりがみ』に載っているような折り紙の理論を滔々とたたみかけたので、今度は田上さんが呆然、見事敵を討ちました。あんまり難しい理論なのでこの番組も成人指定になりましたが、もっと難しいことも話したかったんじゃないですか？「打ち合わせで、分かりやすいようにして下さいといわれたので…」

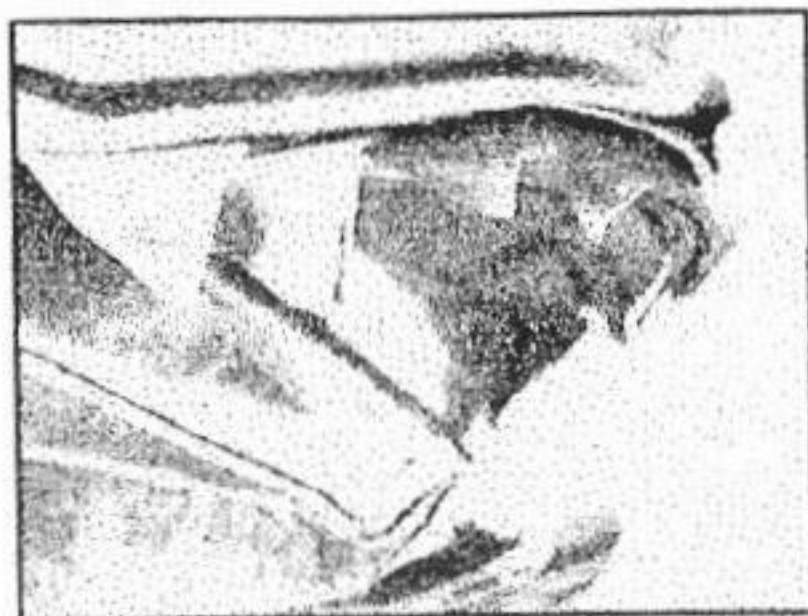
続いてミウラ折りが紹介されると一段と科学的になったのですが、最後に山口氏が折り紙に対する熱い思いを語って、一気に精神世界へトリップしてしまいました。

地方局から全国ネットに進出したら、その次は一気にNHKに攻め上げるしかありませんね。それも毎週土曜日の連ドラの枠を手に入れました。これで日本のテレビ界は探偵団のもの。ムフフ。

というわけで第3弾はBSで現在放送中の『ふしぎ折り紙』。この番組はギャラが少ないので人間はさぼることにして、折り紙作品に代役を頼みました。テレビ局のほうもそれに合わせてナレーションをさぼった

のですが、この作品たちがなかなかの役者揃い。

川畑氏のチラノサウルスは口の中をアップで撮られても恥かしがらないし、川畑氏と吉野氏の骨格対決、西川氏と北條氏のペガサス対決はまさに手に汗握る好勝負。終いには昆虫と鶴の空中戦が画面狭しと繰り広げられ、血しぶき飛び交う壮絶な画面となってしまったので、この番組も成人指定になりました。



チラノの口のアップ ふしぎ折り紙

真面目な番組ばかり出ていると肩がこりますので、第4弾はフジテレビ系列の『ワーズワースの冒険—料理のうまい居酒屋』。CCガールズが料理のおいしい居酒屋を紹介していると突然、探偵団登場！箸袋で折り紙を折り始めます。

ここでもいきなり山田氏の『なかよしのダックスフンド』が登場。この番組もやっぱり成人指定になったことはいうまでもありません。それから吉野氏の『薔』で盛り上がり、みんなの作品を紹介して…えっ、もう終り？探偵団の登場時間しめて1分30秒也。

撮影は当然居酒屋で行われましてお勘定はテレビ局持ち。これがギャラがわりというわけですが、探偵団の誇る大喰いコンビ、小魔人Oと段ボールこと筆者は、ろくに折り紙も折らずに食べてばかりいた、ということは想像に難くありません。



こんな風にテレビに出られます
ワーズワースの冒険 95年5月7日放送

なお、一部事実と反する記述があることをお断りしておきます。折り紙の偉人たちをこんなに茶化してしまって、とても恐れ多いのですが、何を隠そう不肖段ボールも第5弾『TVチャンピオン』に登場しているのです。この次は私が茶化されるのを覚悟して、それでは、テレビの前でまたお会いしましょう。

大魔人、小魔人は31号記事参照。
放送日は関東地方でのものです。

特報！TVチャンピオン 第1回折り紙王選手権 探偵団メンバー大挙出場！

栄光の座を手にする者は誰か!?

'95年7月6日午後7時30分

テレビ東京にて放映、ご期待下さい！

おりすじ

June Bride篇

おりすじを

つける前に 松下直子

6月。毎年5丁目の神社の紫陽花を確認するのは、子ども時代からの私の一人遊びのひとつであった。生まれも育ちも文京・白山。とは言え此処がおりがみの聖地だとは、2年前までよく知らないでいた。

ある日の事、『季刊をる』創刊のダイレクトメールが郵送されて来た。どうして私なんぞにこのメールが…？が、勿論、謎は直ぐ解けた。そう、あそこだ、と。一度住所と名前を書いたのが残っていたに相違ない。(今頃になってその有り難さを痛感する。)近くなのに…おりがみ嫌いになった訳でもないのに…。兎に角ずっと行っていない。本当にずーっとだった為、『をる』を申し込むことにすら若干の気後れを覚えたものだった。しかし思えば、あの選択は、結構大きな分れ道だったのかも知れない。寿の80円切手を連想させる(?)あのダイレクトメールは

私に、おりがみはうすとの再会と、折紙探偵団との初対面を準備してくれた。記憶の中で、そんな認定がなされている。

「遅くなりましたあ、髪の毛、行って」

汗を拭きつつ目ガネ氏、登場。

「馬の開き」で湧いていた昼下がりの…。名刺をくれた。『あわて床屋』のうさぎくんを折った人か、なる程。覚えてぞ、と思った私の様子が既に少々おかしい。古くさいジーパンも汚れて丸めたハンカチも、何より散髪後の青々したうなじ。そして、いかにも善良そうな、且つセカセカした態度…。どれもこれも微笑ましくそして妙に腹立たしい。何故だ？

帰宅後、ゴロゴロしながら『をる』(第1号)を開くと、96ページだった事をよく覚えている。小さな偶然だな、と心で呟きながら、貰った名刺を乗にして床に就いた。

季節は巡り、それから更に2年が経つ。「紙を折る時の右手と左手の様な、そんな夫婦に成れますように。」唐突だが、目標とシャレ込んで先日思いつき、一人たのしんでいる。

6月。未来の自分に、今年の6月は、大きな記念日として伝承されることになる。真っ只中に居る現在は、何やら気忙しいばかり先に立ちあまり自覚が無いけれど…。

神社の紫陽花が色づくのは何日頃かしら。里帰りして、今年もちゃんと確認に来なくちゃ。敵のポケからご縁玉でも一枚抜き取って、チャリンと鳴らせ。感謝を込めてパンパンしたら、その足でおヒゲのおじちゃんの綿あめを食べに行こう！

編集部注：筆者は今頃西川誠司夫人となっている予定です。

おしらせ

先のコンベンションにおけるオークションの売り上げは約4万円となりました。この売り上げと探偵団宛に送られたPeter Engel氏からの義援金1万円を加えた5万円で、折り紙用紙260束と山口さんの「おりがみ事典」10冊を買いもとめ、それらを大阪府枚方市立さだ図書館(代表：石橋進一氏)に送付しました。さだ図書館は、阪神大震災避難所の子供たちに折り紙を楽しんでもらうボランティア活動を行っています。避難生活の長引く子供たち、彼等の笑顔の糧となれればと思います。

おりすじ

折り畳まれた記憶

前川 淳

懐かしさというより、あまりの取るに足らなさに、頬がゆるんでしまう古い記憶がある。日清のチキンラーメンの記憶だ。こうして書くといかにも情けないが、内容も大したものではない。幼いわたしがラーメンができるのを待つ長い長い3分間に折り紙（蓮の花）を折っているというだけのはなしである。まったくもって「何だそれだけ」てなもんであるが、反復して思い出されるためか大事な思い出になっていて、死に際の「走馬灯」にも出てきそうなのである。当時のわが家の家具の傷とかフスマのしみとか、奇妙にディテールが揃っている。「いろがみ」が今のものに比べて安っぽく、色が落ちやすいものであったのも記憶に鮮明だ。思い返せば、当時の「いろがみ」は折り紙の素材としてより、それを水に浸して色水を生産する材料としてあった。パッケージの表には、瞳に星を宿した女の子の絵が、裏には、ピアノやおうちの折り方の図が描かれている。最近の折り紙用紙に付いている「山口真先生指導の折り図」とは大違いの、投げやりとも見える図だ。紙のかたちも正確に正方形とはいえない。そんな紙に汗をにじませ、指先を紙の色に染めて蓮の花を折る。ラーメンができあがる。

手を洗ってきなさいと、母親に叱られる。

番号順に線を結ぶと絵が浮き出てくる遊びのように、折り紙に関する記憶をたどってみる。チキンラーメン、クリスマス会、病気で寝込んだ枕元、…。小学校の低学年から思い出は途切れ、わたしは18,9才になっている。ケガレなきオサナゴも「平面の分割と紙の重畳に関する情緒的研究」という勿体ぶった題のノートに記すてらいに満ちたセーネンになっている。このノートを勇んで見せにいったのが、「おりがみ-超難解作品集」（すばる書房）の著者、今のわたしとほぼ同じ歳の笠原邦彦さんだ。当時のわたしは自分から見てもエキセントリックな若者で、最近の笠原さんなどは、「前川君も普通になったねえ」と少しがっかりしたように言う。いずれにしても、そこからわたしと折り紙の本格的な付き合いが始まったわけである。思い出すことは多く、それはこの小さなスペースでは到底書ききれない。折り紙はわたしの思い出に大きな重みを与えている。重みという言葉はものが紙だけにふさわしくない。そう、それはわたしに様々な皺（ひだ）を付け加えてくれている。

また、前号でお知らせした折紙探偵団コンベンション折り図集(定価1000円・送料240円)も少々残部がありますので、ご希望の方はおりがみはうすまでご連絡を。

折紙探偵団 定例会のお知らせ

6月例会は17日に済んでしまいました。ごめんなさい。次の例会は7月22日(土)文京区民センターで午後1:30~9:00頃までです。

探偵団名簿について

多数の方々からお申し込みをいただいております折紙探偵団第6期名簿は、8月下旬にお送りする予定です。今しばらくお待ち下さい。

折紙の美子ちゃん



テキストがバイナリー式にないなら

新刊書紹介

「空想おりがみ」川畑文昭・著
定価2600円(税込)送料380円



上製本(ハードカバー)
B-5版
180ページ
カラー口絵
4ページ

おりがみはうす ガレージ
ブックシリーズ
第2弾。恐

竜作品を中心にユニコーン、ペガサスなど中級、上級者向けの作品を19点収録。お問い合わせはギャラリーおりがみはうす までどうぞ。

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫